鉄欠乏性貧血の治療薬の静注鉄剤に関して

オスラー病（遺伝性出血性毛細血管拡張症、hereditary hemorrhagic telangiectasia: HHT）では、繰り返す鼻出血や消化管出血により慢性の鉄欠乏性貧血（iron deficiency anemia: IDA）の患者さんが多くおられます．鉄欠乏性貧血の治療としては、出血を減らす、無くすのが一番なのですが、オスラー病では、困難な場合が多く、鉄剤の補給も重要な治療の一つになります．緊急の場合は、輸血も躊躇なく行われる場合もあります．

鉄剤の補給は、内服薬として経口で服用するのが原則ですが、悪心、嘔吐、食思不良などのため、経口摂取の継続が困難な場合があり、そのような場合は、静脈注射（静注）により鉄の補給が行われます．また、経口の鉄剤では鉄の損失が大きく、追いつかない場合や高度の貧血のため、急速に鉄の投与が必要な場合も、静脈投与が選択されます．ちなみに、比較的、消化器症状の少ない経口の鉄剤としては、リオナ®（クエン酸第二鉄水和物、鳥居薬品）があり、2021年３月から鉄欠乏性貧血に対しても適応になっています．

現在、投与可能な静注可能な薬剤は、3種類あります．含糖酸化鉄（フェジン®）、カルボキシマルトース第二鉄（フェインジェクト®）、デルイソマルトース第二鉄（モノヴァー®）で、モノヴァー®は、2022年３月28日に認可されています．どの薬剤も副作用が出る可能性がありますが、中でも低リン酸血症は重篤な合併症であり、骨軟化症にもつながります．

低リン酸血症とは、血清リン濃度が正常値（通常2.5mg/dL以上）を下回る状態です．症状は、筋力低下、呼吸不全、心不全などがあり、重症化すると痙攣や昏睡に至る可能性もあります．

3種類の静注鉄剤の中で、最も低リン酸血症の合併症の可能性が低く、また短期間の少ない回数で必要量の鉄の投与が可能な鉄剤が、モノヴァー®（日本新薬）です． ただ、重大な副作用としてショックやアナフィラキシーの報告もあります．

静注可能な鉄剤による低リン酸血症の合併症は重篤で、静注鉄剤の投与が頻回に必要になる可能性の高いオスラー病の患者さんには、私はモノヴァー®の投与をお勧めします．

2025/4/19

大阪市立総合医療センター　脳神経外科　小宮山雅樹